

①組頭新左衛門罷免嘆願 (慶応三年十一月)

(表紙) p 1 0030

□十一月同辰二月共

乍恐以書付奉願上候

御知行所武州市ヶ尾村小前惣代百姓代

要次郎外壺人奉申上候当村組頭新左衛門江

当年貢取立方被 仰付候趣承知仕候得共

同人義は文久貳戌年中種々私欲押領

御座候ニ付村方彼是混雑及ヒ差纏中

p 2 0031

村内朝光寺取扱立入新左衛門義は退役

為致候間私欲押領之廉々は同寺為

相任呉候様達て申候ニ付任其意ニ事済

相成然ル処去々丑年中又候同人江組頭

役被 仰付候ニ付如以前混雑出来無扱

夫々箇条書ヲ以再三奉願上候得共御取用

不相成乍併御林山伐木等之義は

○此文小右衛門

御殿様より被 仰付候義ニは無御座趣

承り就ては。右体不正之廉御座候者江

今般改て御年貢取立被 仰付候様にては中々

以村方不相治弥増混雑仕小前共必至と

難渋仕乍去

p 3 0032

御地頭所様御差支相成候ては一同奉畏入

候義ニ奉存早米取立は右新左衛門携

早速上納可仕

候共前文之通不正之取計仕候もの

御年貢は勿論諸取立向江携候様にては

先年より猶更混雑及候間同人義は

是迄之通御用村用江決て不差綜外

役人にて御用村用相勤候得は聊差支

筋無御座村方穩ニ相治り村方一統安心

相続仕無此上も難有仕合奉存候間何卒

格別之以 御慈悲前段之始末

御賢察之上新左衛門義は是迄之通

居置外役人共にて御用村用相勤候様被

p 4 0033

仰付被成下置度一同挙て奉願上候以上

慶応三卯年十一月

前書之通去卯年十一月月中奉願上度兩人

出府仕候処村内朝光寺在府中ニ付

同寺より被差止メ尤朝光寺方より右之段

御殿様江被 仰立候ニ付格別之思召

被為有御座候趣右惣代共江被申聞第一

追々及月迫 御上様江奉掛御苦勞

p 5 0034

御手数候ては奉恐入候間可差扣所同寺

より被申聞素より村方為筋專一二取計

被下候朝光寺之義ニ付任其意差扣

帰村仕候処新左衛門義不得止事

御地頭様より被 仰付候趣ヲ以自分

宅ニて御年貢皆済勘定等仕追々

先年より都て我意増長は顕然弥

増混雜出来仕一同及難渋候間無

余儀不奉顧恐多出府此段奉

願上候何卒出格之以

御憐憫前頭之次第逸々被為聞召訊

右新左衛門義御用村用江決て不差事口外

p 6 0035

役人共ニて相勤メ村方穩ニ相治一同安心

相続出来候様被 仰付被成下置度偏ニ

奉願上候以上

慶応四辰二月十二日

(了)

令和3年12月積文ス青葉区古文書之会わりいし